

2022年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

岩上ゼミ

基本テーマ	<p>「証券投資の学びを通して、経済を見る力・感じる力を磨こう！」</p> <p>株式や債券といった証券への投資論を学びます。株式相場は、国の経済活動の強弱を反映します。個別企業の株価は、事業活動の良し悪しを反映します。債券は、経済活動の体温ともいえる金利を表します。株式や債券について学ぶことは、企業や国の経済活動そのものを学ぶことに他なりません。</p> <p>卒業後に皆さんがどんな職業に就こうとも、経済への理解は必須です。投資の学びを通して、経済を見る力、経済活動の息吹を感じる力を養います。</p> <p>一攫千金を夢見るゼミではありませんので、勘違いしないように！</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰでは、証券分析の基礎を学びます。株式、債券、投資信託といった代表的な投資商品や企業分析について学びながら、リスクを抑えつつ安定的な収益を獲得する投資手法について考えます。</p> <p>演習Ⅱでは、パート活動が中心となります。希望により①地域金融経済パート、②日経STOCKリーグ*パートに分かれ、3～5人のグループでテーマを決めて研究します。ゼミでは、パートごとに研究の進捗状況を報告し、全員で議論をしながら研究を深めていきます。(*日本経済新聞社が主催するチーム対抗の金融経済・投資学習コンテスト「日経STOCKリーグ」で検索)</p> <p>卒業研究は、演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、各自設定したテーマについて研究を進めます。Ⅱの研究テーマの延長でも、新たに興味をもったテーマでも構いません。日経STOCKリーグに参加したグループは、コンテストに提出するレポートをチームで作成します。</p>
就職指導の方針	<p>企業の人事部にいた経験をもとに、就職活動全般について相談に乗り、希望に応じて指導します。進学希望者についても、希望に応じてサポートをします。</p>
卒論の要件	<p>テーマは、経済・金融にかかわる内容であれば、自由に選択して構いません。</p> <p>分量は、A4(40字×40行)で7ページ以上(図表は除く)を目安とします。日経STOCKリーグに参加するチームは、コンテストに提出するレポートをもって卒業論文とみなします。</p>
学生への要望	<p>以下に該当する学生の応募を期待します。</p> <p>①金融や投資に関心を持ち、主体的に学びたいという意欲をもつ人。</p> <p>②3～5人程度の小グループでの研究に、積極的に取り組むことができる人。</p> <p>③大学生としての基本的なマナーを守れる人。</p>
その他	<p>前期に「金融論」の講義を履修している必要はありません。履修していないことがゼミでの学習・研究、成績評価に不利になることはありません。</p> <p>岩上ゼミを希望する学生は、応募する前に研究室(3号館4F-411)まで来てください。各人の希望を聞きたいので、できるだけ一人で来てもらうのが良いです。あらかじめメールで予約して貰うほうが確実です。</p> <p>担当教員メール:iwakami@k-kentan.ac.jp ゼミ活動内容や担当教員プロフィールは研究室HP(https://www.iwakami-lab.com)を参照してください。</p>

岡村(俊)ゼミ

基本テーマ	<p>ゼミのテーマは“情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い”です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、“ICT(情報通信技術)を活用することで、ラクして、いい仕事しよう”となります。</p> <p>ヒット商品や心理学に関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。</p> <p>岡村(俊)はICTの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択肢となります。一方、「コンピュータは苦手、でもうまくなりたい」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができ、苦手意識を克服することができるかもしれません。ICTに興味がない人はこのゼミには向いていません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本的に“演習1”と“演習2”は“卒業研究”に向けての準備だと考えます。卒業研究は“勉強”ではなく“研究”なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのICT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)など実践的な活動をやることもあります。</p> <p>ゼミの運営は基本的に学生主体が望ましいところです。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。</p>
就職指導の方針	<p>就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。</p>
卒論の要件	<p>ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。</p>
学生への要望	<p>自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した“おとな”として扱います。“おとな”になれない、“おとな”になろうとしない学生は、最低限の学習しかできないと思ってください。</p>
その他	<p>何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。</p>

岡村(雄)ゼミ

基本テーマ	<p>複式簿記会計の基本原則を学ぶ</p> <p>会計は「事業の言語」といわれています。企業は財務諸表(決算書)という書面の公表によって、自社の概況について説明します。他方、財務諸表をみた関係者は、その企業とのつきあい方を考え、行動します。こうしたコミュニケーション現象から会計は言語といわれるようになりました。付言すれば、ある状況における問題の発見、認識、そして解決方法を議論する際に、会計は必要不可欠な知識であり、その形式的な構造を支えるのが複式簿記ということになります。</p> <p>本演習はテキスト輪読や問題演習に加えて、ボードゲーム、模擬店経営、企業調査等も取り入れながら、複式簿記会計の理論的かつ実践的な習得を目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>学生が主体となって運営し、教員はアドバイザーになることが望ましいと思っています。本ゼミの大まかな計画は次の通りです。</p> <p>演習Ⅰ:複式簿記の問題演習、基本テキストの輪読 演習Ⅱ:基本テキストの輪読、卒業研究の準備 卒業研究:毎週、研究の進捗を報告しながら、論文にまとめる</p> <p>過去に実施した課外活動 ※今年度は新型コロナウイルスの感染状況次第で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日商簿記検定対策の学習会 ・学内開放における模擬店経営と複式簿記会計の実践 ・長期休暇を利用した合宿(垂水市、南九州市、本学) ・企業調査(東京都、京都府、福岡県、熊本県)
就職指導の方針	履歴書、エントリーシートの添削、小論文の学習指導等できる範囲でサポートします。
卒論の要件	<p>研究対象:基本テーマの範囲 字数制限:なし</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、約束を守る、といったマナーやルールを大切にしてください ・財務会計論、会計情報論等の会計科目も履修してください
その他	前期は国内留学中のため、研究室でお会いできません。本ゼミに関心ある方はメールでご連絡ください。Zoom等で説明会を実施します。

瀬口ゼミ

基本テーマ	<p>私の講義科目である、マーケティング論や経営戦略論が中心的テーマになります。マーケティング論でいえば、「なぜ売れる商品と売れない商品があるのか」、「ブランド力を高めるためにはどうすれば良いのか」、「海外で行うマーケティングは、日本国内で行うマーケティングと何が違うのか」などの、経営戦略論の視点では、「企業と企業はどのように競争しているのか」、「ライバル会社に勝つためにはどのような手段があるのか」、「企業の行動は社会に対してどのような影響を与えるのか」などの疑問について考えていきます。</p> <p>これらの疑問は、すぐに答えが出るものではありません。2年生後期の【演習Ⅰ】で基本文献を読み、マーケティング論や経営戦略論の基本的思考と理論枠組みを学びます。そこで得られた知識を、3年生からの【演習Ⅱ】と【卒業研究】のなかで、具体的な商品や企業に応用させていきます。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。その他にも、広告の効果やドラッカー学説の検討など、理論的に考察した研究もありました。</p>
ゼミ運営方法	<p>【演習1】では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。</p> <p>(1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。 (2)各自で興味のある本を1冊選択し、交替で発表する。</p> <p>いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文献を決定し、担当者を割り振る。 ②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、発表当日に他のゼミ生に配布する。 ③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容を説明し、自分が考えた論点を提示する。 ④他のゼミ生は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。 <p>【演習2】では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。</p> <p>【卒業研究】では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</p> <p>・新型コロナウイルスの状況次第ですが、学内開放(学祭)への参加や食事会等の活動を行いたいと考えていますので、このような活動に積極的に取り組みたい学生さんの応募を待っています。ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから自分たちの希望を私に伝えて欲しいと思います。</p> <p>なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差を付けることはありません。</p>
就職指導の方針	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外の時間でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。よく相談に来てくれる学生には、毎週のように指導することがあります。</p> <p>また、就職活動に必要とされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手にはっきりと伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。文字数は特に設けていません。心配しなくても、書くべきことを書いていけば、十分な文字数になります。</p>
学生への要望	<p>現時点での知識や能力などは一切問いません。同様に、私の授業を受講したことがあるかも関係ありません。また、一人ひとり忙しさや力を入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むことはしません。</p> <p>しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。 ・ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。 ・自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。 ・自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくること。 ・「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。
その他	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまで気軽にメールしてください。</p> <p>私と直接話して相談したい場合も、上記のメールアドレスにメールを送ってください。お互いの時間を調整して相談に乗りたいと思います。</p>

2022年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

近間ゼミ

基本テーマ	<p>テーマ:「働くこと」を問い直す 私たちが「働くこと」の目的はいつい何でしょうか。労働とはそもそも、自らの生活を支える賃金を得るための活動です。それに加えて、労働とは、自らが有する知識・技能や潜在的な能力を伸ばしたり、発揮したりすることによって、自己実現や社会的な役割を果たす活動です。 一方で、今日の働き方には過労死や長時間労働、非正規労働者の不安定雇用や低賃金という問題があり、上記の目的の達成には困難が生じています。コロナ禍で「多様な」働き方への注目が集まるなか、望ましい働き方の模索が必要とされています。ゼミでは日本の働き方の特徴、ライフスタイル(結婚、子育て、介護など)との関係性について考えていきたいと思ひます。</p>
ゼミ運営方法	<p>大まかには以下のような流れで進めていきたいと思ひます。 演習Ⅰ:ゼミのテーマに関わるテキストを1冊選択し、輪読を行います。 演習Ⅱ:卒論の執筆に向けて、各自が関心を持っているテーマに関係する論文を取り上げ、その内容を報告してもらひます。 卒業研究:卒論の目次案、概要を報告してもらひ、実際に卒論を作成してもらひます。各々の進捗状況に合わせて、適宜アドバイスを行います。 ゼミ運営の具体的な方法については、ゼミ生と相談しながら決めていきたいと思ひます。あくまで学生が主体となってゼミが運営されることが望ましいので、参加しやすいやり方についても何かあれば提案してください。 また、ゼミ生の希望があればゼミ旅行、ゼミ合宿などの課外活動を企画したいと思ひます(ただし、新型コロナの状況次第)。なお、ゼミの時間以外の活動の参加は任意であり、参加の有無によって成績に差をつけることはありません。</p>
就職指導の方針	<p>希望者には、履歴書の作成や面接練習などを可能な範囲でサポートしていきたいと思ひます。就職活動はゼミのテーマとも密接に関わることで、心配事なども遠慮せず相談してください。</p>
卒論の要件	<p>社会問題を扱うテーマであれば、ゼミで扱うテーマでなくても構いません。テーマについては、ゼミのなかで相談しながら決めていきたいと思ひます。文字数はとくに制限はありません。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守ってお互いが気持ちよくゼミに参加できるように心掛けていきましょう。 ・欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席しないこと。 ・ゼミでは活発な議論ができることを望みます。ただし、どんな発言に対しても相手を誹謗・中傷するようなことはしないことを守ってください。
その他	<p>ゼミについて興味がある方は、研究室(3号館4階)を訪ねてください。その際、事前にメール(chikama@k-kentan.ac.jp)でアポを取っていただけると確実です。もちろん、メールでの質問もかまいません。</p>

疋田ゼミ

基本テーマ	<p>【基本テーマ】どんな働き方をする？ 働き方が多様化している現代社会。それぞれの働き方のメリットとデメリットはどんなところにあるかを考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>「演習1」では、企業が提供する様々な「働き方」について議論します。 まずは、同じ記事を読んでも、どこに注目するかは読む人にとって違うことを楽しんでください。その上で、その「働き方」のメリットとデメリットについては、企業側と労働者側で評価がどう違うか、その「働き方」が採用されるようになった背景について議論します。 ①毎週、新聞・雑誌の記事から、その「働き方」のメリットとデメリット 参考:日本経済新聞、週刊ダイヤモンド、賃金と社会保障等、資料室の雑誌 ②法的な視点から、その「働かせ方」「働き方」はどう評価されているかを知る 参考:企業法務を専門とする弁護士事務所のHPや転職サイト・労働組合のHP 「演習2」では、演習1での学習状況を見極めながら、文献を2冊選び、輪読します。 ①文献については、「演習1」で興味をもった働き方をテーマにしたものをみんなで選んで決めます。決める過程で、文献調査の方法などについて学びます。 ②報告担当を決め、報告者は自分の担当箇所をレジュメ(またはパワーポイント)を使って自分が考えた論点を中心に報告する。他のゼミ生は報告に対して質問や意見を述べることで議論を充実させる。 「卒業研究」では、各自のテーマに基づき、卒業論文を完成させることがメインです。それぞれの研究内容や進捗状況などを随時報告してもらひます。</p>
就職指導の方針	<p>編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイス、履歴書添削などのサポートは最大限行いますが、ゼミの運営に主体的に関わっていくことが、必要な素養を身に着ける最大の就活対策になると思ひています。</p>
卒論の要件	<p>基本的にテーマは自由。演習2の終わりまでにテーマを見つけてください。コピーでなく、自分で調べたこと、自分で考えたことを、自分の言葉でわかりやすく書いてください。図表などを使うと15,000字程度の卒論は結構書けると思ひます</p>
学生への要望	<p>自分とは違う考え方に会いたいと思ひている人、自分の頭で納得いくまで考え、自分の言葉で表現したいという人、ゼミで何かやってみたいと構想を持っている人大歓迎です。協力してください。ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむというメリハリをつけられる人。あるいはそうありたいと思ひている人を希望します。</p>
その他	<p>疋田ゼミについてもう少し知りたいと思ひう人は研究室(3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで(hikita@k-kentan.ac.jp)アポをとってから。またメールでの質問も受け付けます。</p>

船津ゼミ

基本テーマ	<p>コミュニケーション能力、議論する力、経済学に関する体系的知識、経済・社会に対する洞察力、プレゼン能力の習得・向上を目指します。これらは、一般企業、公務員等の就職活動や進学に有意義であるだけでなく、卒業後、社会人として様々な活動をする上での地力となると考えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになることと議論できるようになることを特に重視して運営しますが、具体的な方法は初回にゼミ生全員で話し合っ決めてたいと思います。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミにしたいと思ます。選択肢としては、1つには、話し合っ決めた共通の本を読みつつ、報告者が担当部分を報告し、みんなで議論する、2つめに、ゼミ生がそれぞれ自分で本を選び(難しすぎたり、簡単すぎたりしないよう、僕が相談に乗ります)、その本の一部(1章が目安)について報告者が報告し、みんなで議論する、3つめに、一部のゼミと同じように、公務員試験等にも役立つ、伊藤元重『マクロ経済学 第2版』日本評論社をテキストに輪読を行ってマクロ経済学の基礎学力をつけるといったことが挙げられます。前回の二部ゼミ(2022年3月卒業)では、公務員志望者が多かったことも影響してか、3つめが選ばれました(3名が地方公務員になりました)。加えて、議論する力や経済・社会に対する洞察力を向上させるために定期的にディベートか新聞や海外通信社の記事等を元にした議論を行うことも提案する予定です。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミ生の要望に沿って指導します。こちらから、あれをしなさい、これをしなさいといった指示を出すことはありません。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望のゼミ生には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会の形で分からないこと等の解説をしたり、質問に答えたりといったことをしてきました。前回の二部ゼミで2年次に地方公務員に採用されたゼミ生(勤務しながら学び、今年3月無事卒業)が他のゼミ生に伝えてくれた面接や履歴書対策のアドバイスや資料も、ゼミ生に活用してもらおうと思っています。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、社会に関するものであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用、中小企業のジョブ型雇用導入)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較、東宝と東映の比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック、太陽光発電の現状と課題等がありました。ゼミ全体やゼミの中での数人のグループで共通のテーマに取り組むことも考えられます(過去には2人で協力してアンケートを取って保育士・幼稚園教諭の人材確保と処遇改善に関する連名の卒論を書いた先輩もいます)。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは一切問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分ですし、そうしやすいようにゼミを運営するつもりです。毎回のゼミでのそうした積み重ねが、コミュニケーション能力や議論する力、プレゼン能力の向上につながっていくはずで。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なくお願いします。他の仕事等と重なる可能性もありますので、前日の午後9時までにメールでアポイントメントをとってもらおうのが確実です。数人一緒でも大丈夫ですので、気楽に声をかけてください。来室時には軽くノックして、「〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p>